

令和 8 年度 全国学力・学習状況調査結果報告 中学校

令和 8 年度全国学力・学習状況調査の実施概要

1 調査日

令和 8 年 4 月 2 0 日（月）～ 5 月 2 9 日（金）

2 調査集計対象

中学校第 3 学年生徒 全国 842,491 人（あきる野市立学校 577 人）

3 市内実施校数（市立）

全市立中学校 6 校

4 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、

- 全国的な生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- 学校における生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

5 調査内容

① 教科に関する調査

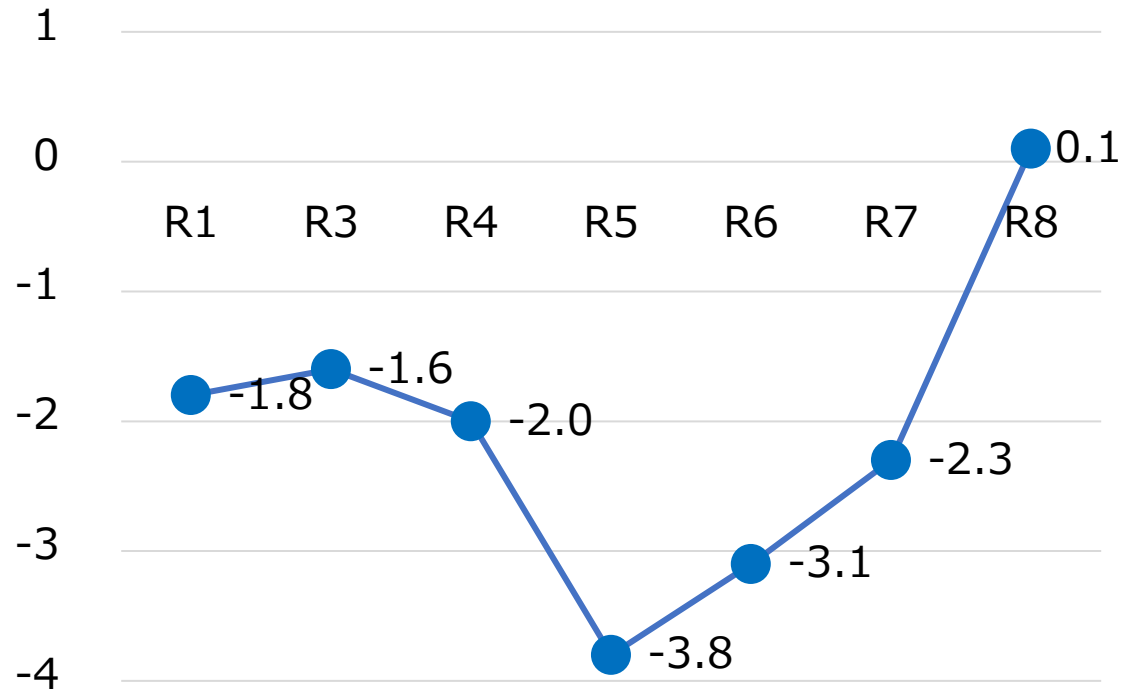
- 国語、数学、英語（CBT）

② 質問紙調査

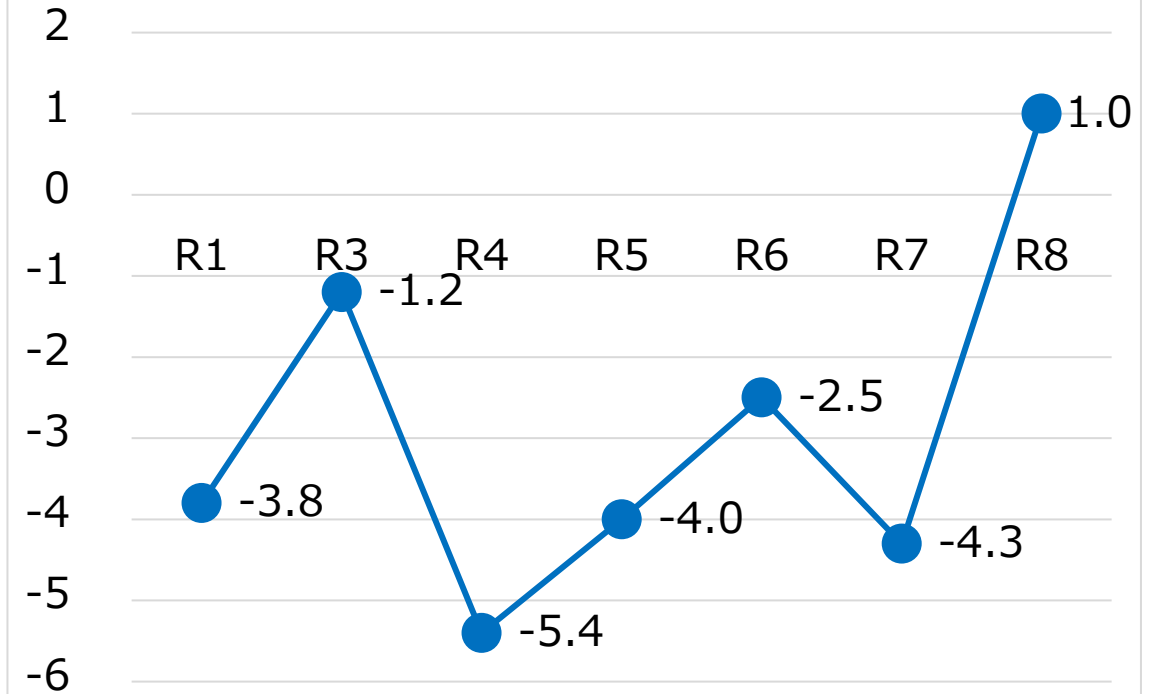
- 生徒質問紙調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査）
- 学校質問紙調査（指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況に関する調査）

全国（公立）平均正答率との差の推移（中学校）

中学校 国語



中学校 数学



全国（公立）平均との差

	R5(小6)	R8(中3)
国語	-4.2	+0.1

+4.3



全国（公立）平均との差

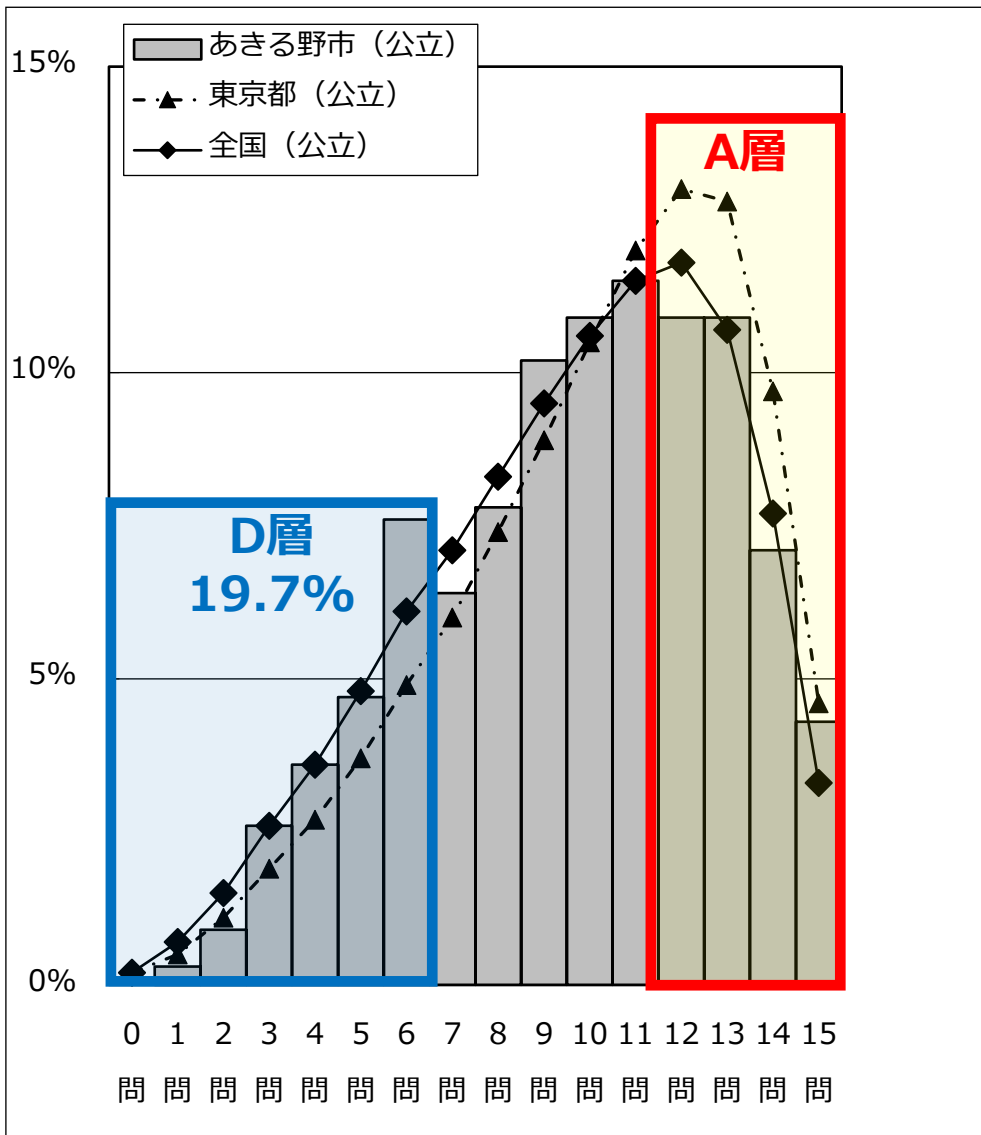
	R5(小6) 算数	R8(中3) 数学
数学	-3.5	+1.0

+4.5



本データは、令和5年度に小学6年生だった児童が、令和8年度に中学3年生となった際の数値（同一児童・生徒）を比較したものです。

「国語」に関する調査結果（正答数分布）



〈平均正答数〉

国語	平均正答数		平均正答率	
あきる野市（公立）	9.7	/ 15	64	
東京都（公立）	10.1	/ 15	68	-4.0
全国（公立）	9.6	/ 15	63.9	0.1

全国平均正答率との差			
R5	R6	R7	R8
-4.2	-8.7	-1.8	+0.1

令和7年度と比較して

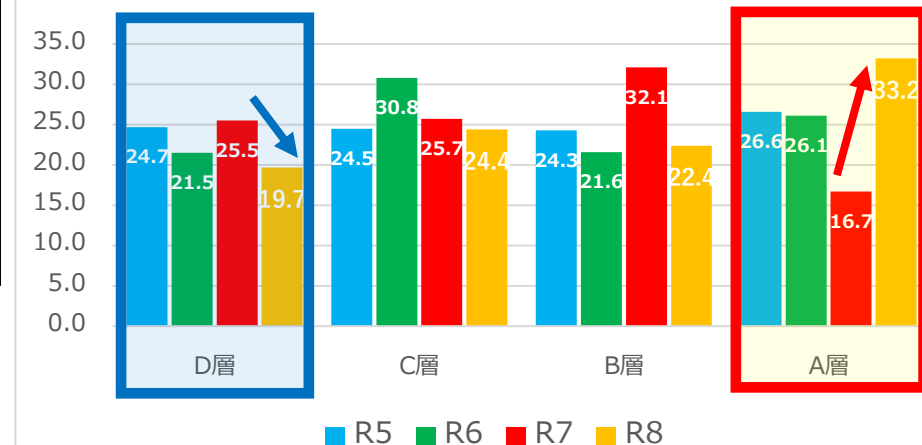
- ・ 正答率が全国（公立）を0.1%上回った
- ・ A層の割合が16.5%増加した
- ・ D層の割合が5.8%減少した

〈四分位における割合%〉

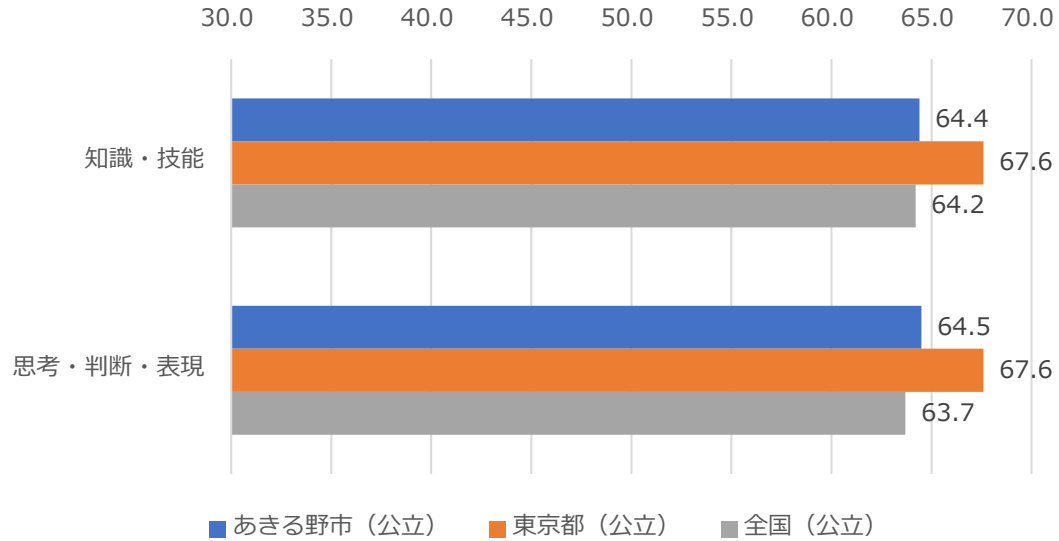
※全国（公立）の四分位による

国語	下位 ← → 上位			
	D層 0-6問	C層 7-9問	B層 10-11問	A層 12-15問
あきる野市（公立）	19.7	24.4	22.4	33.2
東京都（公立）	15.0	22.3	22.5	40.1
全国（公立）	19.5	24.9	22.1	33.5

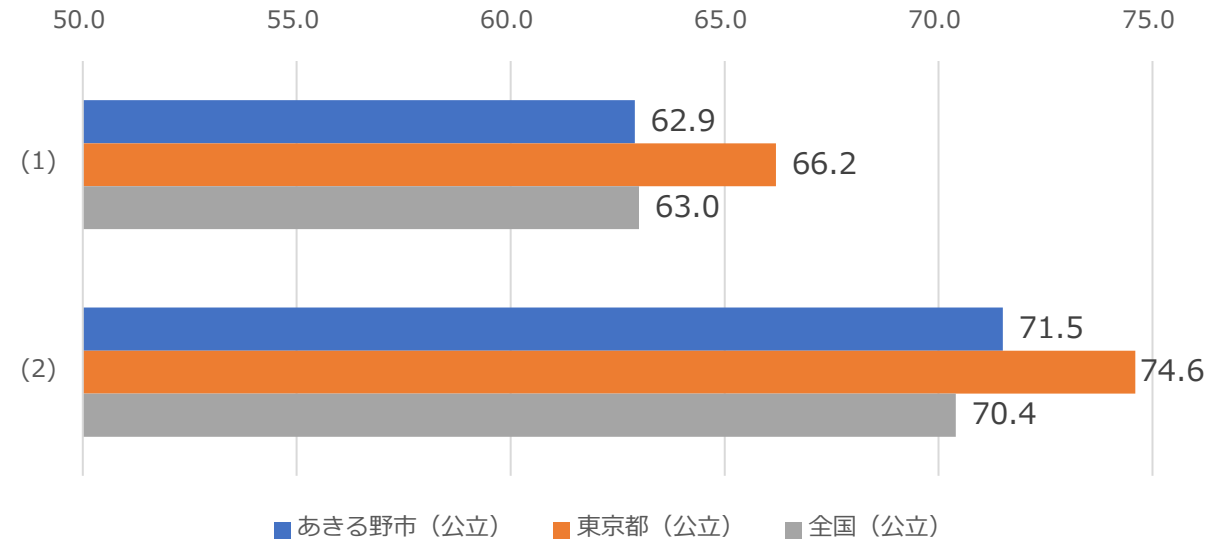
四分位における割合の変化



「国語」に関する調査結果（領域別の結果）

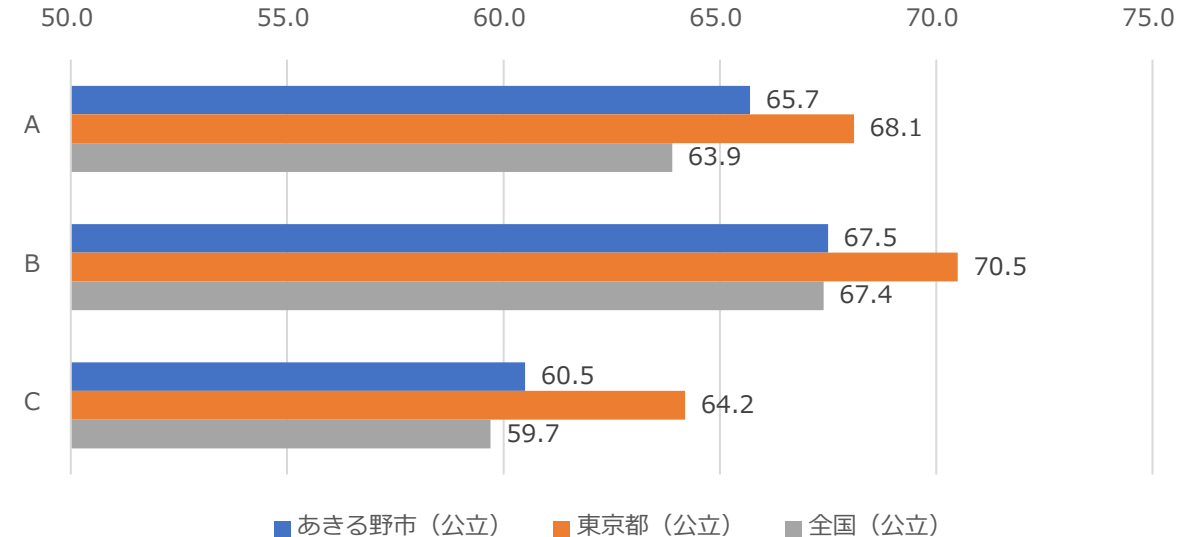


〈知識及び技能〉



全国（公立）平均との差	R5	R6	R7	R8
知識・技能	-5.4	-4.4	-3.7	+0.2
(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	-5.1	-4.7	-3.7	-0.1
(2) 情報の扱い方に関する事項	-3.6	-2.2	なし	+1.1
(3) 我が国の言語文化に関する事項	-6.8	-7.9	なし	なし
思考・判断・表現	-3.0	-3.0	-2.6	+0.8
A 話すこと・聞くこと	-1.7	-1.7	-3.1	+1.8
B 書くこと	-3.8	-3.8	-2.6	+0.1
C 読むこと	-3.6	-3.5	-2.1	+0.8

〈思考力、判断力、表現力等〉



「国語」課題が見られた問題の概要と指導改善のポイント

（「令和8年度全国学力・学習状況調査（報告書）」文部科学省・国立教育政策研究所）

学習指導要領における内容 「B 書くこと」

〈大問3三〉段落相互の関係を明確にし、文章の展開を工夫することができるかどうかをみる。

（正答率62.5%）※全国（公立）平均正答率から-2.5%

指導改善のポイント

これまで読んできた随筆を想起させ、筆者は伝えたいことを効果的に伝えるためにどのように展開を工夫しているかを確認して自分の書くことに生かす学習が考えられる。展開の工夫について考える際には、本問で選択肢として示したもののよう、書き手の意図とそれに応じた文章の構成や展開の例を示すことも効果的である。

学習指導要領における内容 「（1）言葉の特徴や使い方に関する事項」

〈大問4二〉語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることができるかどうかをみる。

（正答率35.1%）※無回答17.4%

指導改善のポイント

「ほうふつとさせる」の別の表現として「ありありと」「イメージ」と解答するのは言葉の意味の一部分を捉えるにとどまっており、不十分である。語句の文脈上の意味を正確に捉えるためには、辞書を活用して語句の意味や使い方に対する認識を深めることが大切である。その上で、文章中の語句と語句との関係を捉えることによって、文章の「構造と内容の把握」や「精査・解釈」を確かにしたり深めたりしていくことができる。

「数学」に関する調査結果（正答数分布）

〈平均正答数〉

国語	平均正答数		平均正答率	
あきる野市（公立）	9.3	/ 16	58	
東京都（公立）	9.9	/ 16	62	-4.0
全国（公立）	9.1	/ 16	57.0	1.0

全国平均正答率との差			
R5	R6	R7	R8
-4.2	-8.7	-1.8	+1.0

令和7年度と比較して

- ・ 正答率が全国（公立）を1.0%上回った
- ・ A層の割合が10.0%増加した
- ・ D層の割合が11.2%減少した

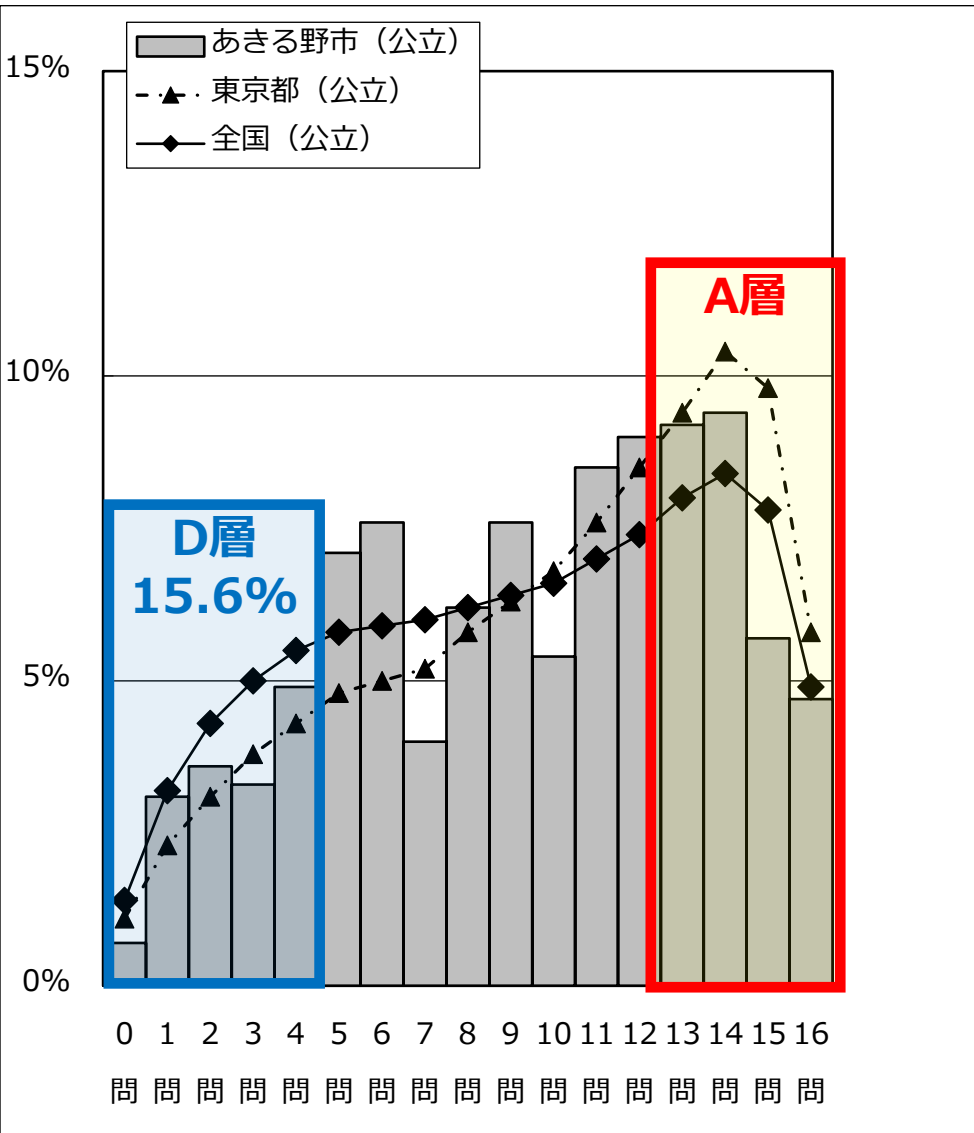
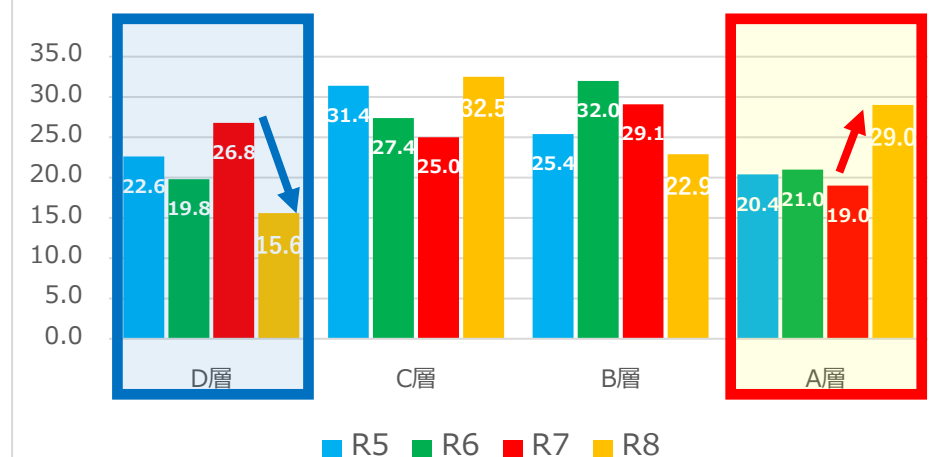
〈四分位における割合%〉

※全国（公立）の四分位による

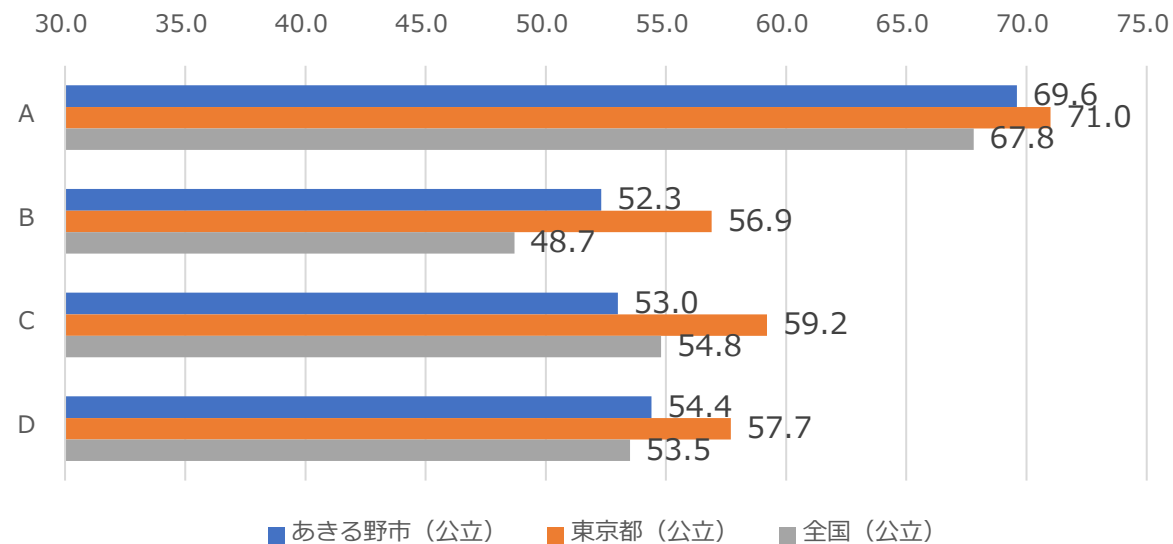
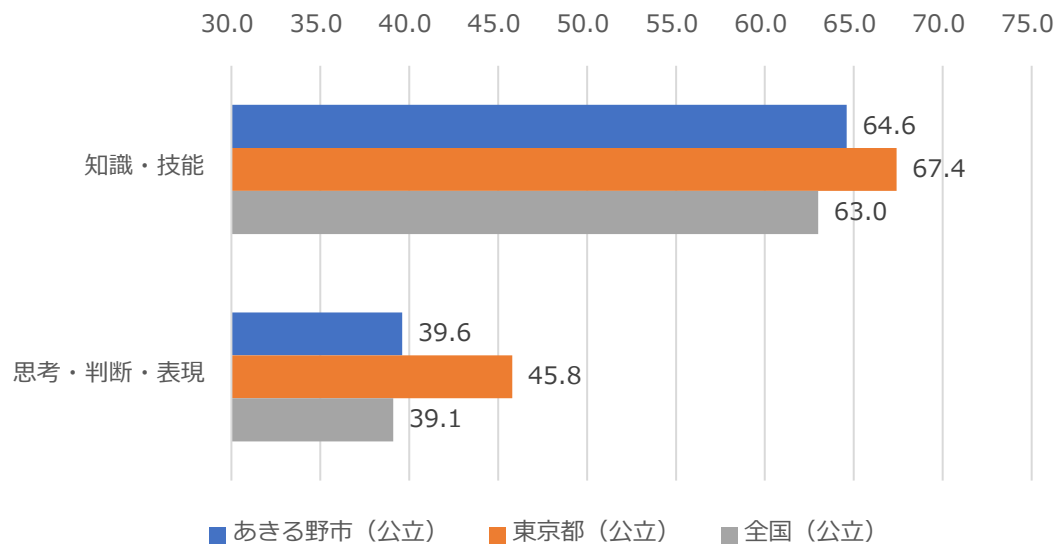
下位 ← → 上位

数学	D層 0-4問	C層 5-9問	B層 10-12問	A層 13-16問
あきる野市（公立）	15.6	32.5	22.9	29.0
東京都（公立）	14.6	27.1	22.9	35.4
全国（公立）	19.4	30.3	21.0	29.1

四分位における割合の変化



「数学」に関する調査結果（領域別の結果）



全国（公立）平均との差	R5	R6	R7	R8
知識・技能	-4.3	-1.0	-3.6	+1.6
思考・判断・表現	-4.3	-6.9	-4.7	+0.5

全国（公立）平均との差	R5	R6	R7	R8
A 数と式	-5.7	-4.2	-3.5	+1.8
B 図形	-4.7	-3.5	-4.3	+3.6
C 関数	-3.4	-2.3	-3.2	-1.8
D データの活用	-2.5	-1.2	-5.5	+0.9

「数学」課題が見られた問題の概要と指導改善のポイント

(「令和8年度全国学力・学習状況調査(報告書)」文部科学省・国立教育政策研究所)

学習指導要領における領域・内容 「C 関数」

〈大問4〉反比例の関係を表す表の特徴を捉えて、 x の値に対応する y の値を求めることができるかどうかをみる
(正答率49.0%) ※全国(公立)平均正答率から-6.3%

指導改善のポイント

反比例の表から二つの数量の変化や対応の特徴を捉えたり、それらの特徴を基に x の値に対応する y の値を求めたりする活動を取り入れ、反比例の意味の理解を深めることができるように指導することが大切である。

学習指導要領における領域・内容 「C 関数」

〈大問7(2)〉数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる。
(正答率32.1%) ※無回答39.3%

指導改善のポイント

問題解決の見通しを立てる場面において自分の考えた解決の方法を表現したり、問題解決を振り返る場面においてどのような方法で解決したのかをまとめたりすることが大切である。その際、表現が不十分な説明を取り上げるなどして、より洗練された表現に高めていく活動を取り入れることが考えられる。なお、まとめた問題解決の方法を適用して新たな問題解決の見通しを立てる場面を設定することで、問題解決の方法を数学的に表現することのよさを実感できるように指導することも大切である。

「英語」に関する調査結果（正答数分布）

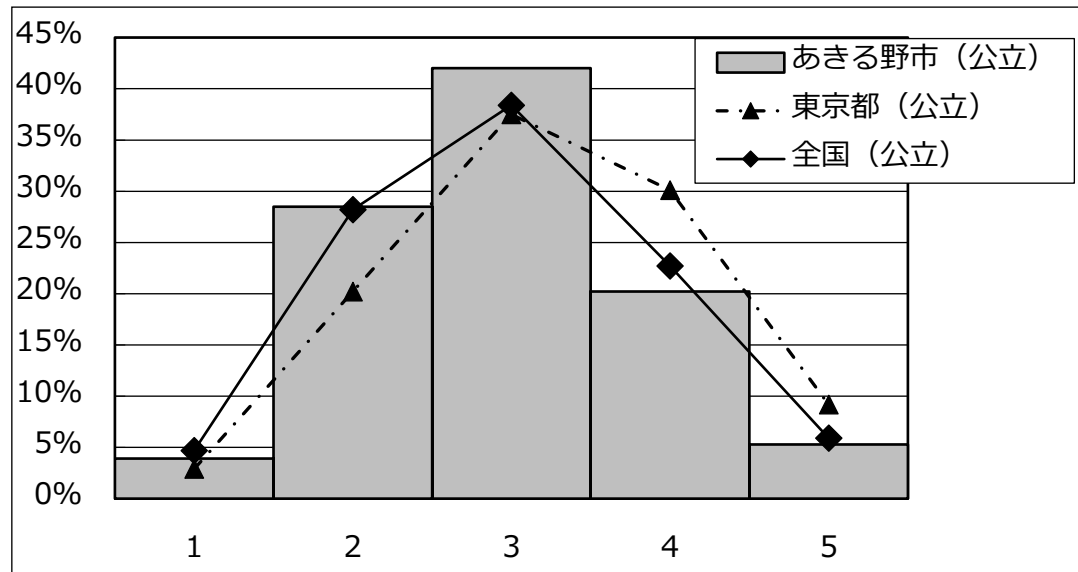
〈IRTスコア集計値〉

	平均IRT スコア	パーセンタイル値				
		10%	25%	50%	75%	90%
あきる野市（公立）	494	367	421	487	561	628
東京都（公立）	530	387	451	529	602	669
全国（公立）	499	364	419	494	571	641
全国（公立）との差	-5	3	2	-7	-10	-13

パーセンタイル値90%のIRTスコアが、
全国（公立）と比較し13ポイント低い

IRTバンド4～5の割合の合計が
全国（公立）と比較し3.1%低い

〈IRTバンド分布グラフ（横軸：IRTバンド 縦軸：割合）〉



IRT バンド	割合(%)			
	あきる野市 （公立）	東京都 （公立）	全国 （公立）	全国 （公立）との差
5	5.3	9.2	5.9	-0.6
4	20.2	30.1	22.7	-2.5
3	42.0	37.5	38.4	3.6
2	28.5	20.2	28.2	0.3
1	3.9	2.9	4.7	-0.8

IRTに基づく調査のイメージ

視力検査を例としたイメージ

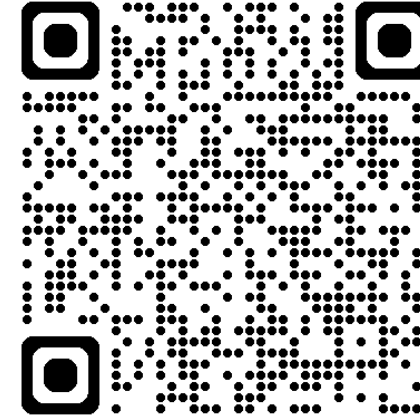
※イメージを表すことを目的として作成したため、示された7つのランドルト環の大きさ（難しさ）がAさんとBさんと異なっている。

	素点方式（正答数・正答率）	IRT方式																								
得点(スコア)の表現方法	何個のランドルト環（C） を見ることができたか	どの大きさのランドルト環（C） を安定的に見ることができたか																								
得点(スコア)の例	<table><tr><td>0.1</td><td></td><td></td></tr><tr><td>0.2</td><td></td><td></td></tr><tr><td>0.3</td><td></td><td></td></tr><tr><td>0.4</td><td></td><td></td></tr></table> Aさん 5問/7問 (正答率71%) > Bさん 4問/7問 (正答率57%)	0.1			0.2			0.3			0.4			<table><tr><td>0.1</td><td></td><td></td></tr><tr><td>0.2</td><td></td><td></td></tr><tr><td>0.3</td><td></td><td></td></tr><tr><td>0.4</td><td></td><td></td></tr></table> Aさん 0.2 < Bさん 0.3	0.1			0.2			0.3			0.4		
0.1																										
0.2																										
0.3																										
0.4																										
0.1																										
0.2																										
0.3																										
0.4																										

素点方式の場合は、Aさんの方が正答数（見ることができたランドルト環の数）・正答率が高くなります。

IRT方式の場合は、Bさんの方がスコア（視力）が高くなります。

全国学力・学習状況調査の分析にかかる研修資料動画



<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/kensyushiryoudouga/26bunseki.html>

IRTスコア

IRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、**500を基準にした得点**で表すものです。

〔各教科にCBT・IRTを導入する年（中学校理科：R7、中学校英語：R8、国語、算数・数学：R9）の全国平均を基準値とし、経年比較が可能な形で算出します。〕

IRTバンド

IRTスコアを**1～5の5段階**に区切ったものです。3を基準のバンドとし、5が最も高いバンドとなります。

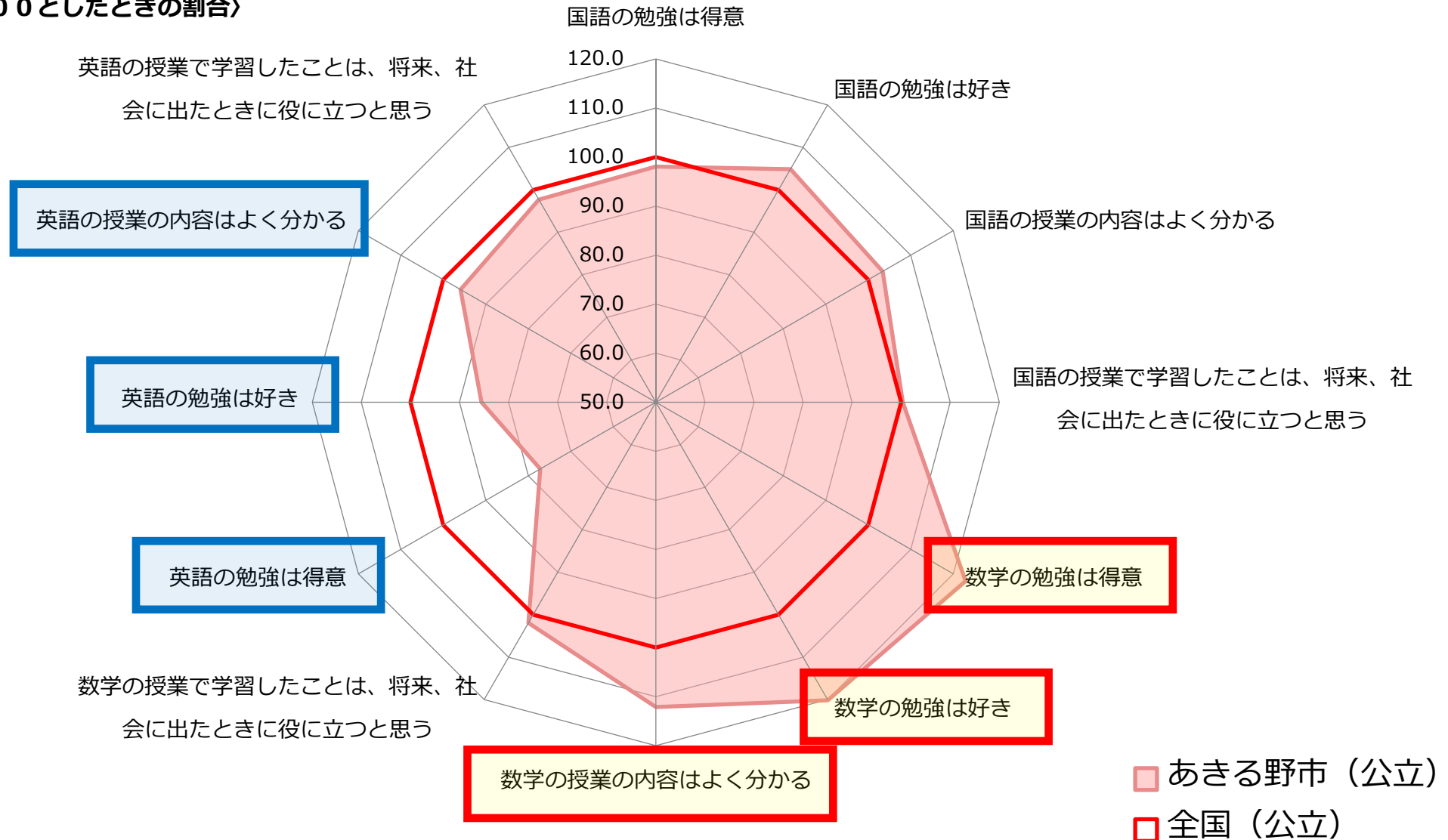
〔各教科にCBT・IRTを導入する年（中学校理科：R7、中学校英語：R8、国語、算数・数学：R9）の全国平均を基準値とし、経年比較が可能な形で算出します。〕

※IRTスコア・IRTバンドは、難易度の高い問題に正答していると高めに、難易度の低い問題に誤答していると低めに算出されます。

各教科への興味・関心、理解度

○肯定的な回答（当てはまる、どちらかといえば、当てはまる）と回答した生徒の割合

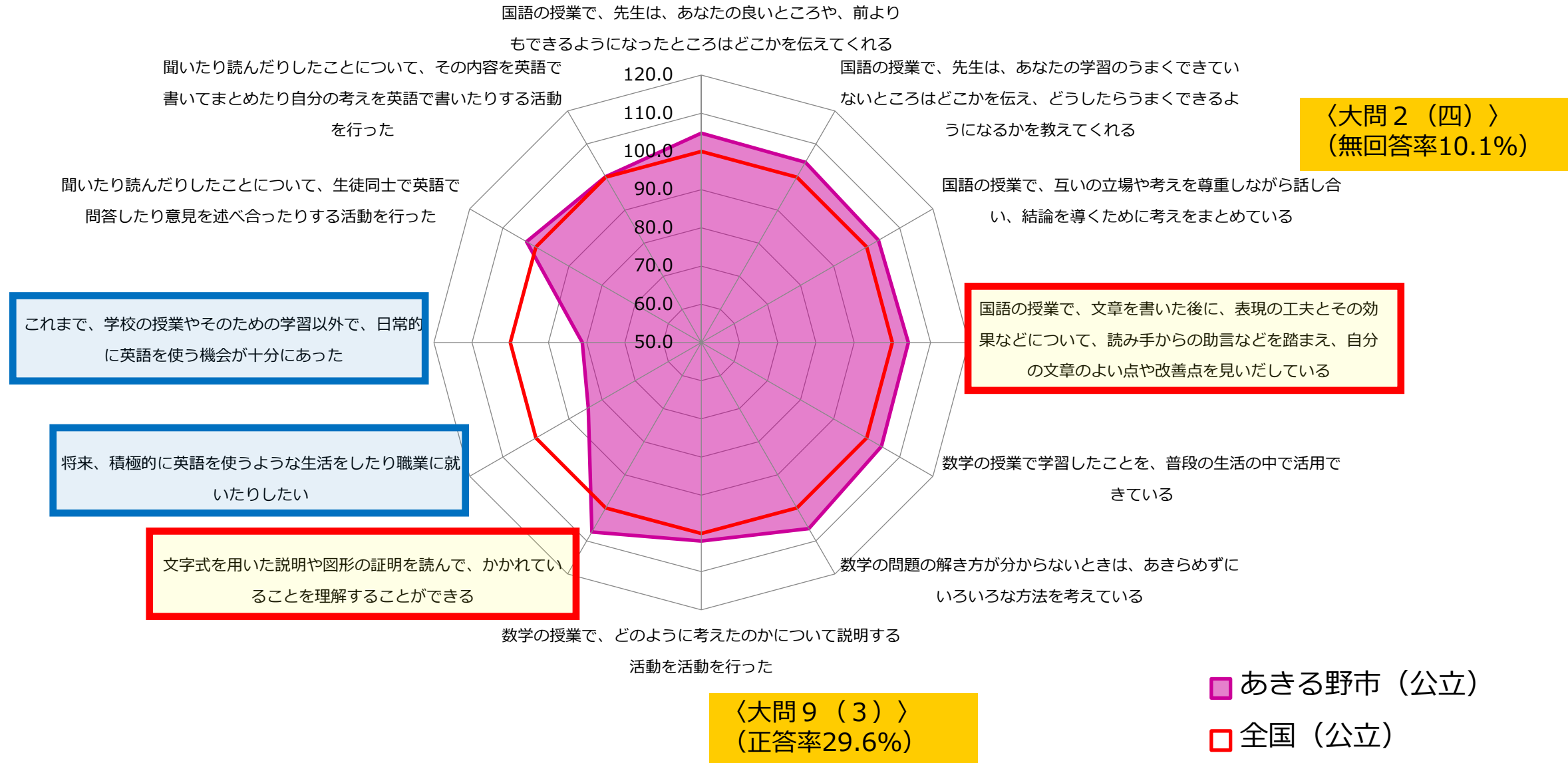
〈全国（公立）を100としたときの割合〉



各教科への興味・関心、理解度

○肯定的な回答（当てはまる、どちらかといえば、当てはまる）と回答した生徒の割合

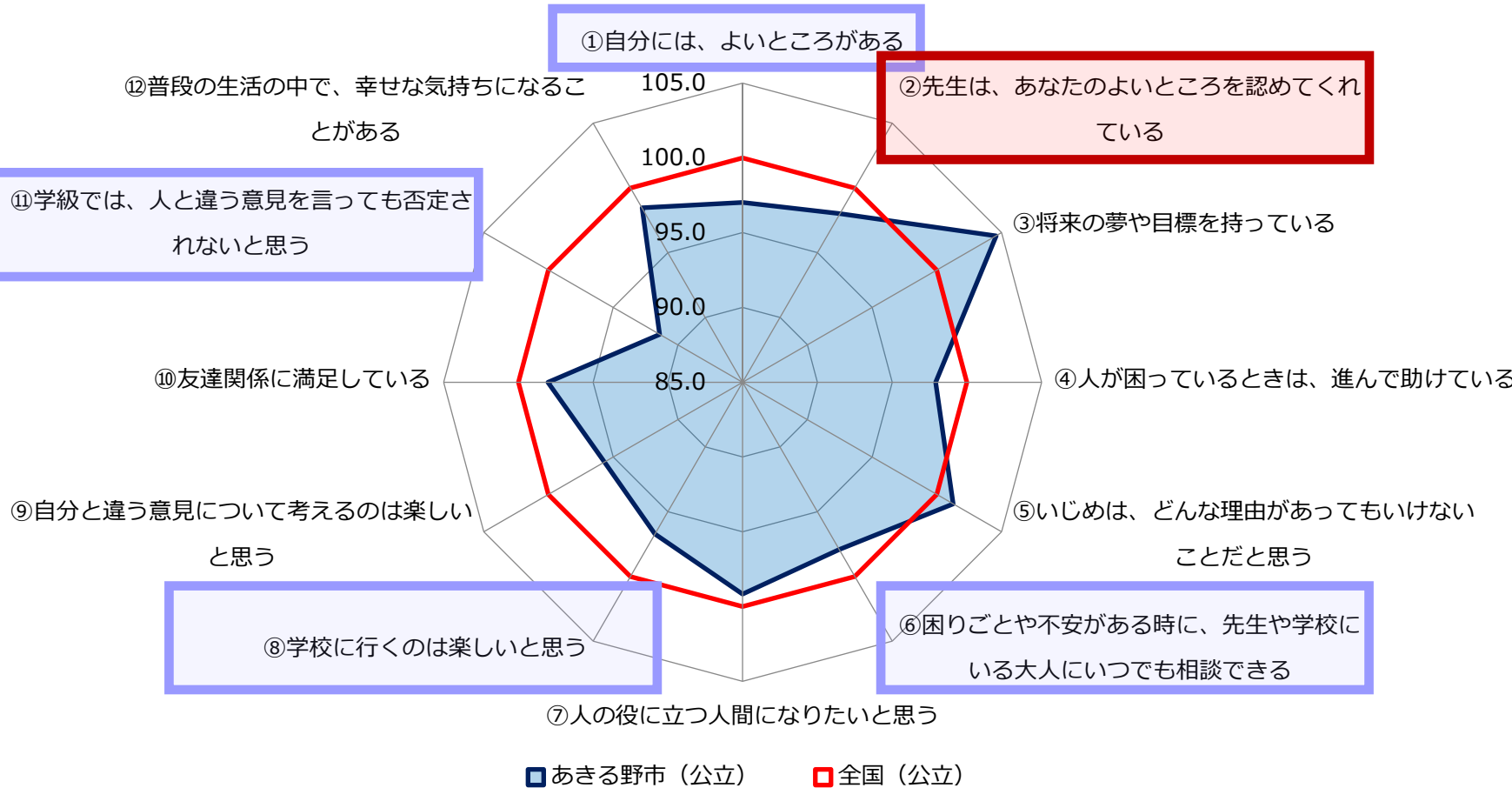
〈全国（公立）を100としたときの割合〉



挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等

○肯定的な回答（当てはまる、どちらかといえば、当てはまる）と回答した生徒の割合

〈全国（公立）を100としたときの割合〉



前年度との比較（肯定的な回答をした児童の割合）



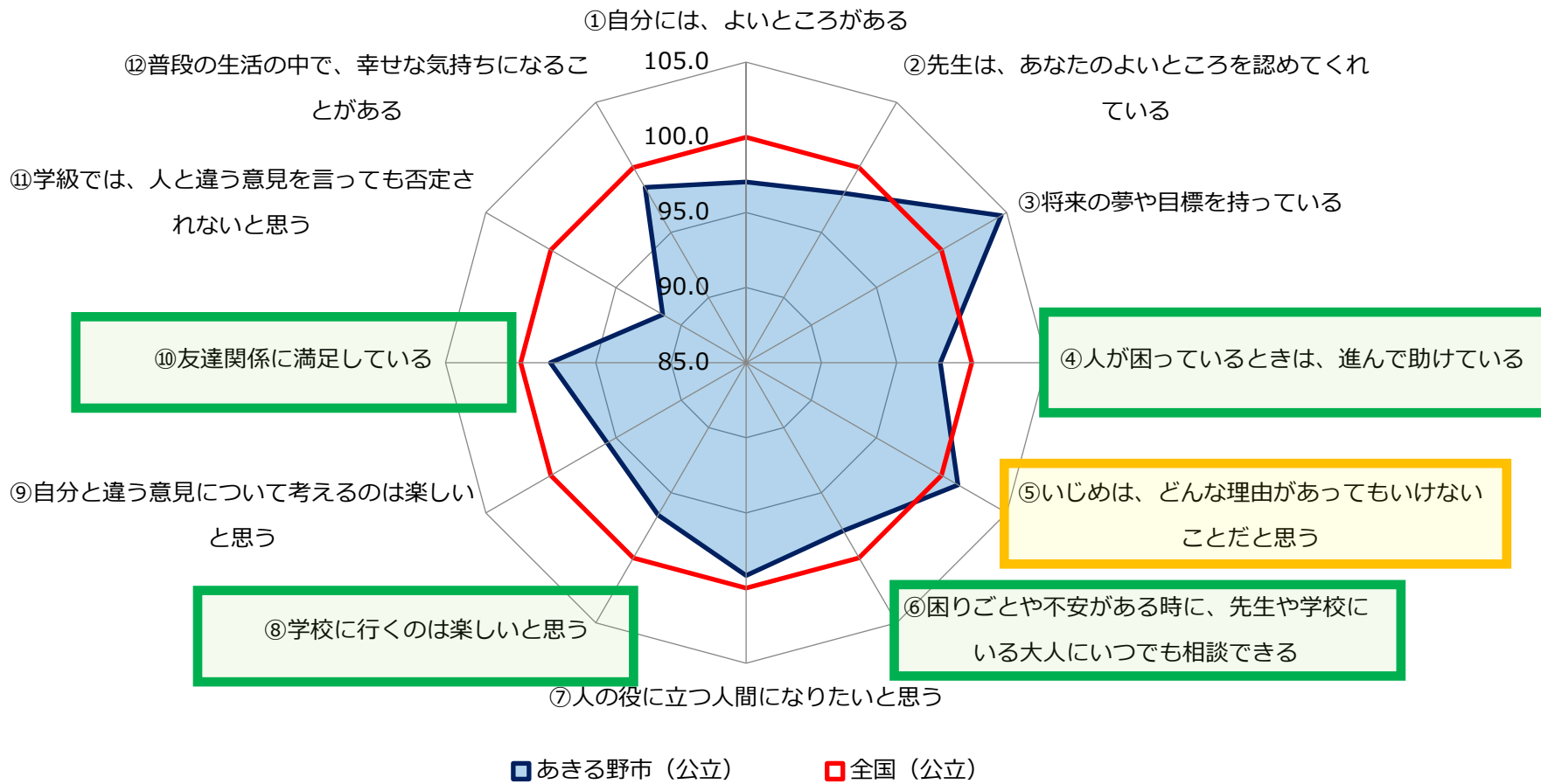
○「先生は、あなたのよいところを認めてくれる」への回答と、「自分には、よいところがある」「困りごとや不安がある時に先生が学校にいる大人にいつでも相談できる」「学校に行くのは楽しい」「学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思う」への回答の間には相関が見られ、相互に影響を与えている可能性がある。

（「令和8年度全国学力・学習状況調査の結果（概要）」文部科学省・国立教育政策研究所）

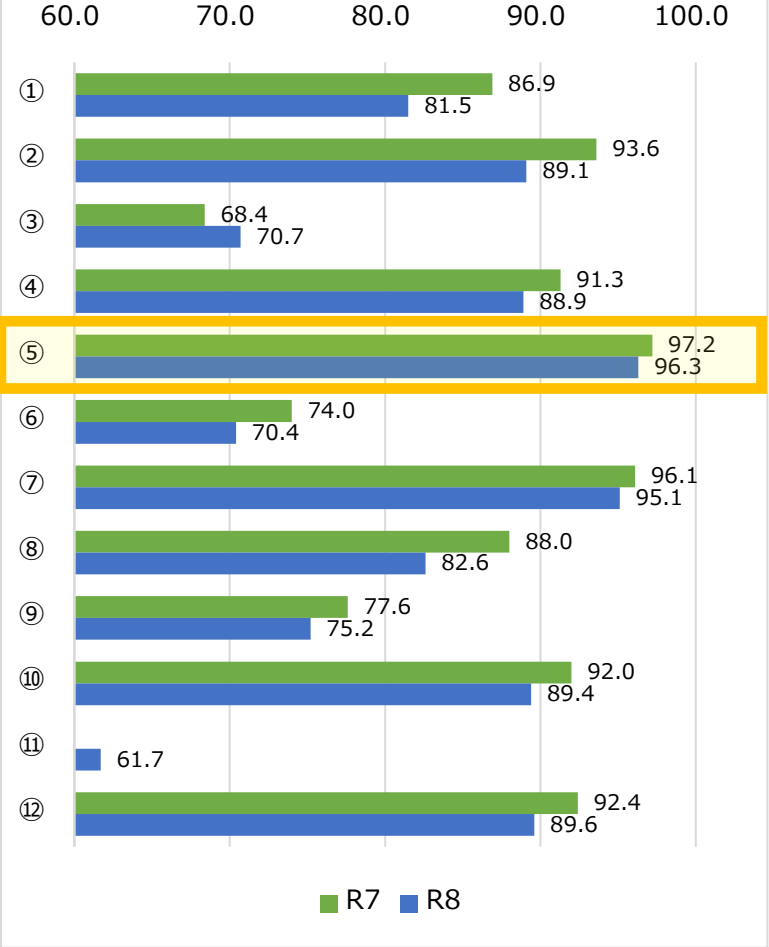
挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等（いじめ・不登校）

○肯定的な回答（当てはまる、どちらかといえば、当てはまる）と回答した生徒の割合

〈全国（公立）を100としたときの割合〉



前年度との比較（肯定的な回答をした児童の割合）

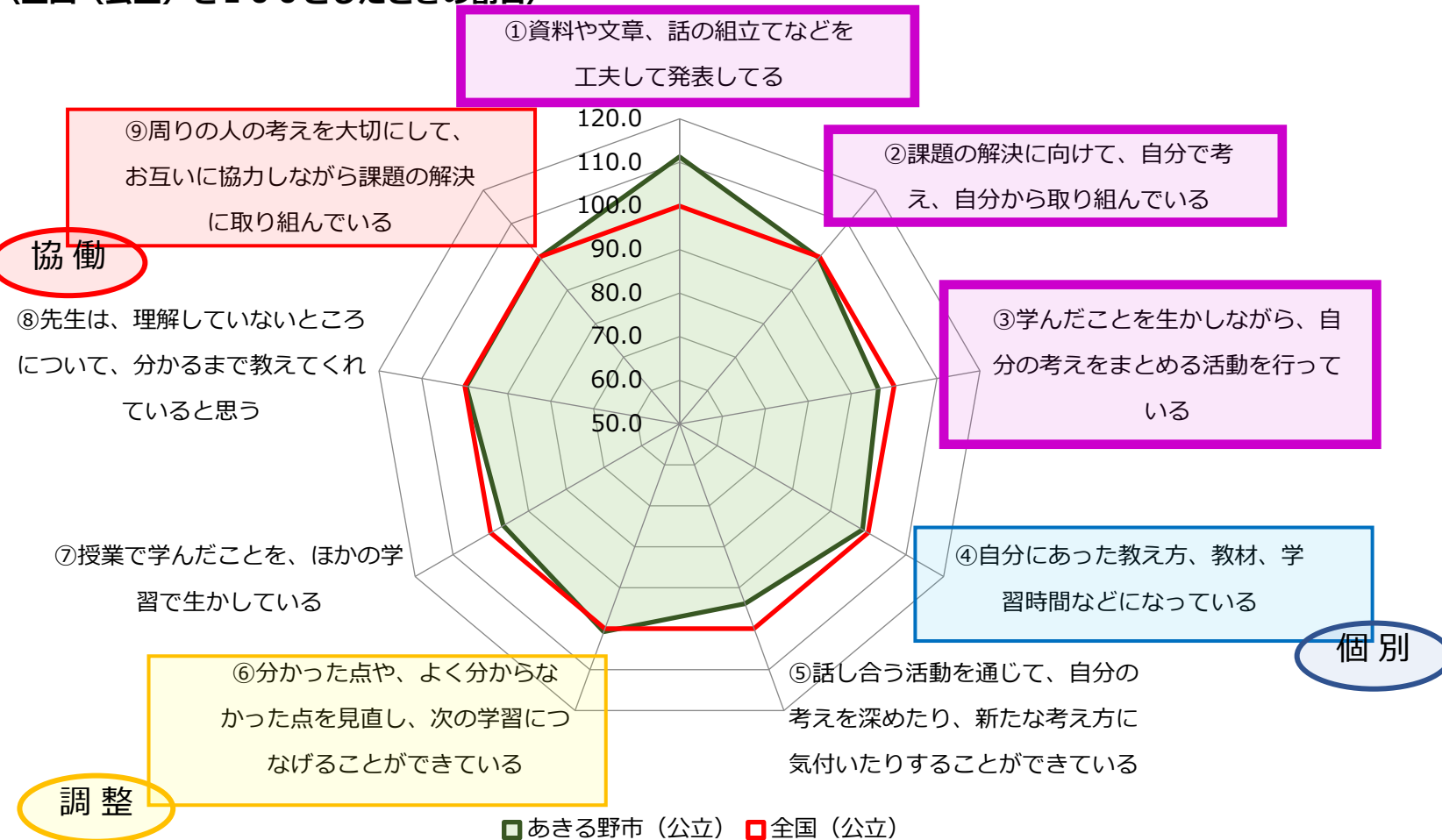


○「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」という質問に肯定的な回答をする生徒の割合
令和8年度結果 96.3%

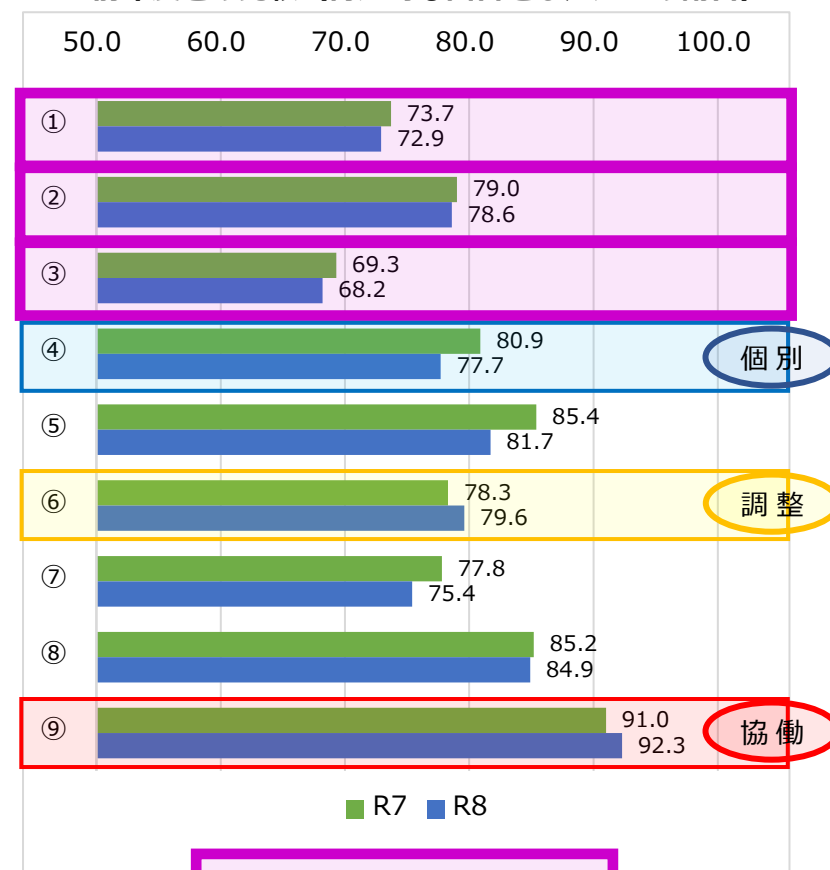
主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

○肯定的な回答（当てはまる、どちらかといえば、当てはまる）と回答した生徒の割合

〈全国（公立）を100としたときの割合〉



前年度との比較（肯定的な回答をした児童の割合）



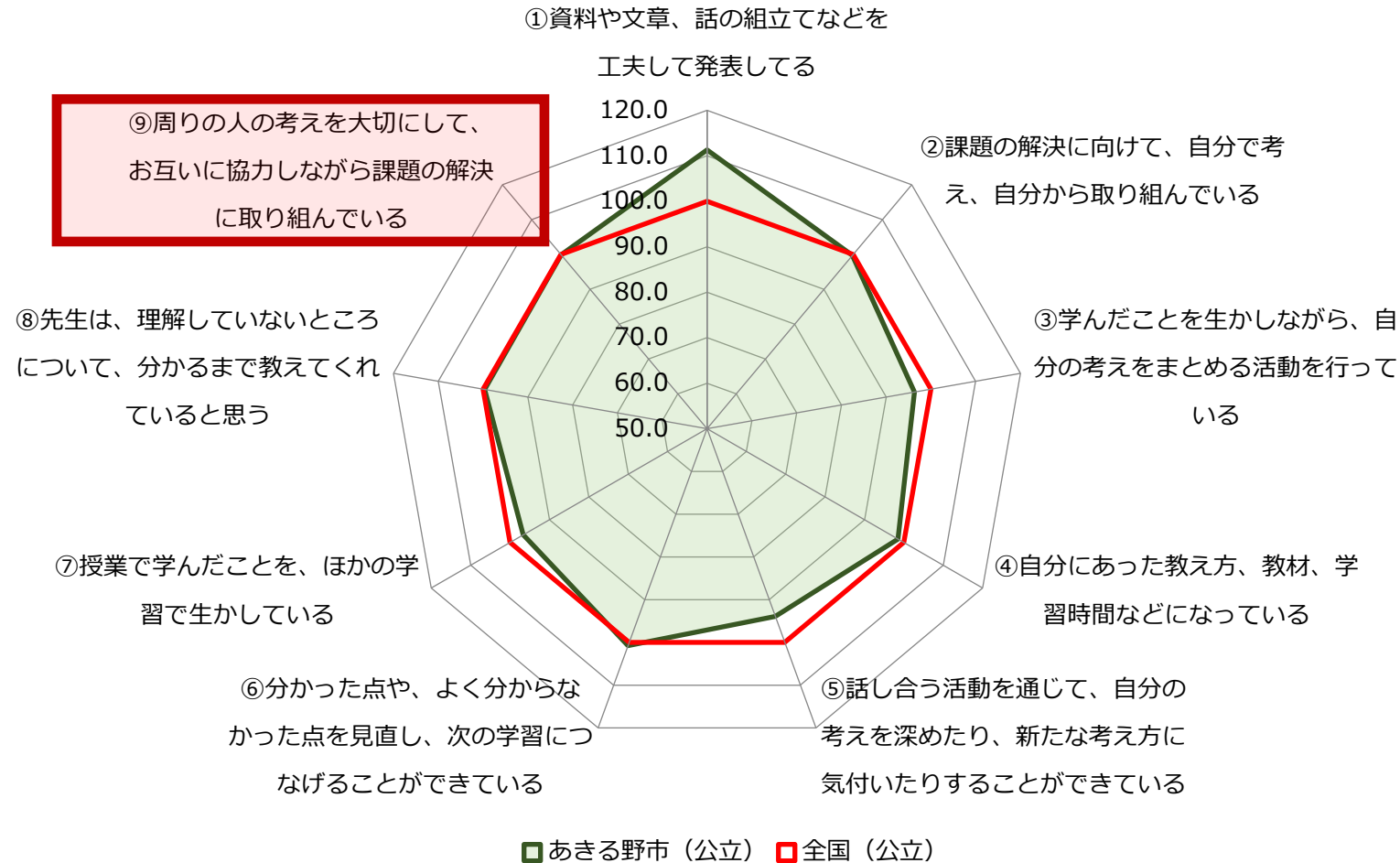
各教科の正答率と関連

- 主体的・対話的で深い学びに取り組んだと考える生徒ほど、各教科の正答率・スコアが高い傾向が見られる。
- 学びの主体的な調整ができていると考える生徒ほど、各教科の正答率・スコアが高い傾向が見られる。

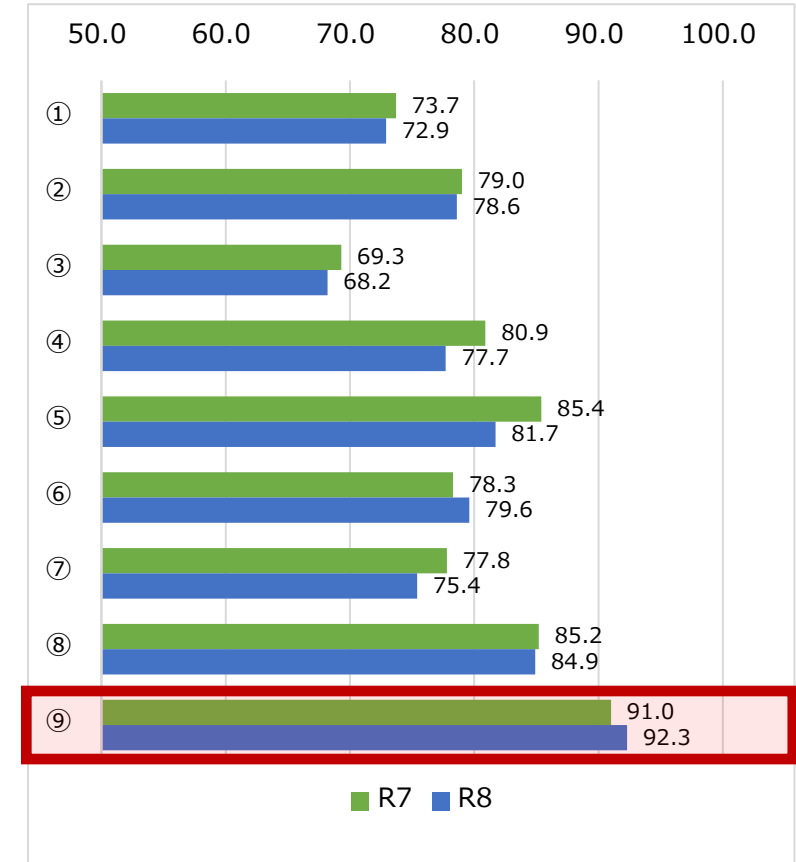
主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

○肯定的な回答（当てはまる、どちらかといえば、当てはまる）と回答した生徒の割合

〈全国（公立）を100としたときの割合〉



前年度との比較（肯定的な回答をした児童の割合）



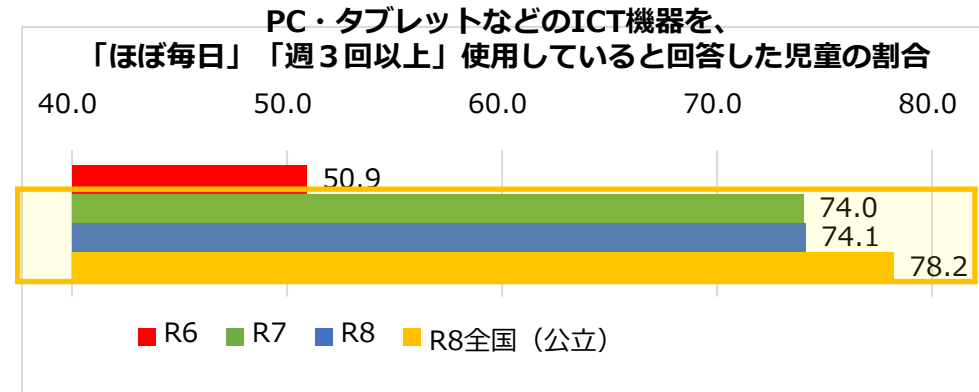
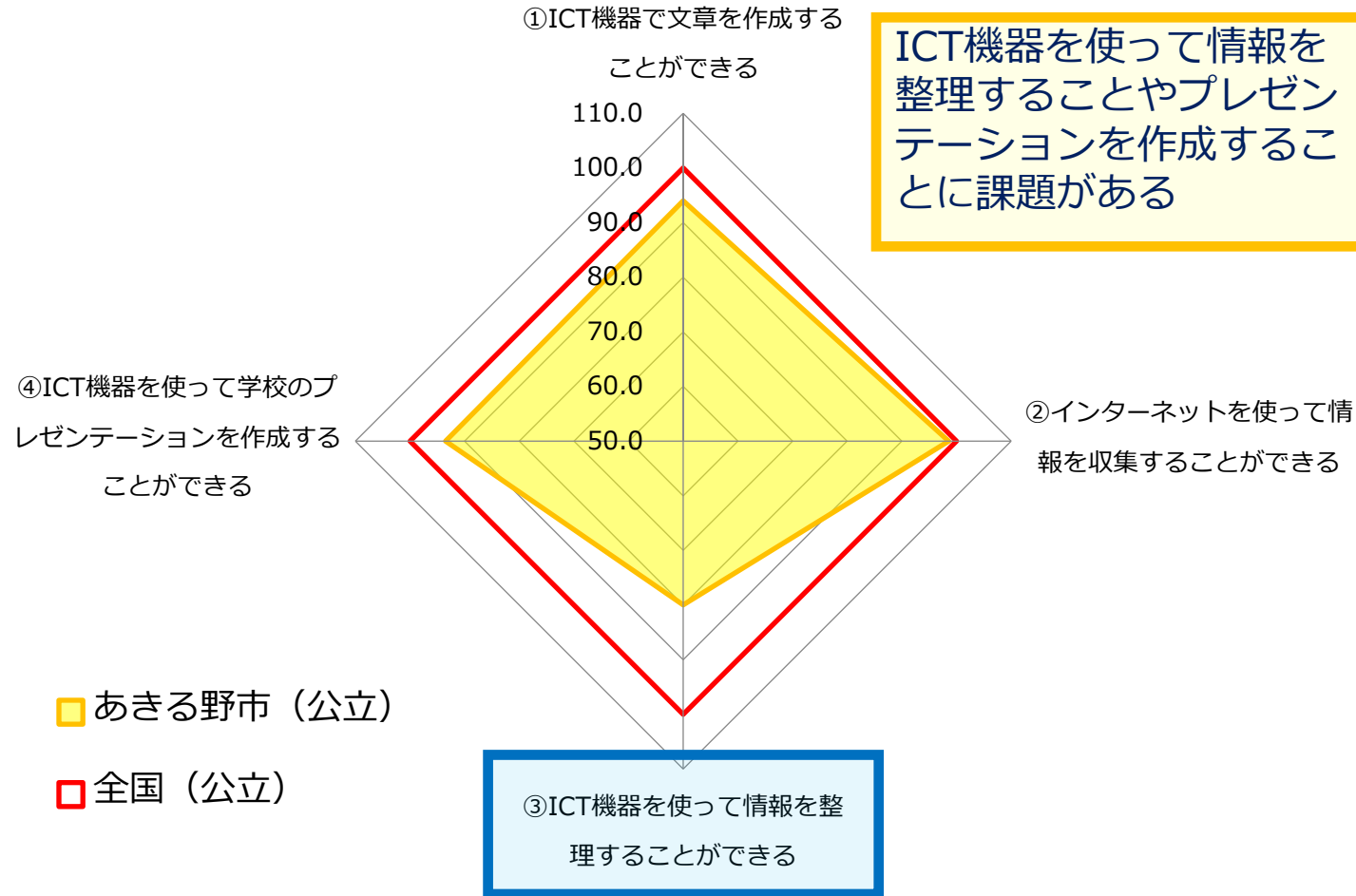
○「周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる」への回答と、「人が困っているときは、進んで助けている」「学校に行くのは楽しい」「自分と違う意見について考えるのは楽しい」「学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思う」への回答の間には相関が見られ、相互に影響を与えている可能性がある。

（「令和8年度全国学力・学習状況調査の結果（概要）」文部科学省・国立教育政策研究所）

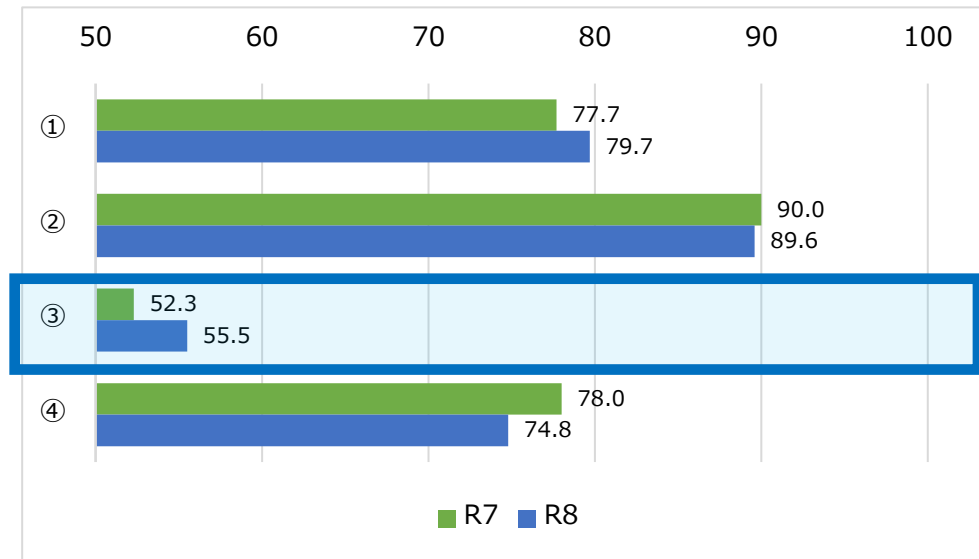
ICTを活用した学習状況

○肯定的な回答（とてもそう思う、そう思う）と回答した生徒の割合〈全国（公立）を100としたときの割合〉

〈全国（公立）を100としたときの割合〉



前年度との比較（肯定的な回答をした児童の割合）



○ICT機器を活用する自信がある生徒ほど、わからないことや詳しく知りたいことがあったときに自分で学び方を考えて工夫したり、課題の解決に向けて自分で考えて取り組んだりしていると考えている傾向が見られる。（個別最適な学び）

○ICT機器を活用する自信がある生徒ほど、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり新たな考えに気づいたり、自分の考えがうまく伝わるように資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表したりしていると考えている傾向が見られる。（協働的な学び）

（「令和8年度全国学力・学習状況調査の結果（概要）」文部科学省・国立教育政策研究所）